

釧路都心部の「にぎわいの場づくり」を検討するための社会実験の実施について【中間報告】

1. 社会実験の目的

ウォーカブルなまちづくり

市は、駅周辺や北大通周辺の「にぎわい創出」に向け、**歩いて楽しめる公共空間の形成**を推進しようとしており、そのための社会実験を企画した。

この社会実験は、「にぎわい創出」の土台となる**場（広場や道路等の公共空間）**をどのように**つくり変えて行けばよいか検討を具体化していくために**、現状の公共空間の中で、利活用に係る実験的な取組を実施し、その効果を検証することを目的としている。

また、自動車での移動を中心とした生活を送られている多くの市民の皆様にとって、**ウォーカブルなまちづくりは「馴染みが薄い」もの**と考えられることから、このたびの**社会実験をきっかけに、理解を深めていただく**ことも目的としている。

なお、この社会実験は、**来年度以降も継続して実施する予定**。今年度の実験結果を踏まえ、**内容を拡充すると共に、市民理解のさらなる促進につなげていきたい**と考えている。

2. 社会実験の進め方

- 将来のまちづくりの担い手候補となる **市民の皆さんが主体** となって社会実験の企画や運営を行うプロセスを検討し、市は後方支援を行う体制を基本として進める。
- 令和5年度に市が開催した市民ワークショップの参加者、RINK釧路まちづくりラボやくしらボ及び地域で活動・活躍されている方々など、都心部のまちづくりの担い手候補となる意欲のある方々を対象として、**ワークショップ形式**により社会実験の企画内容を検討していただく。
- 社会実験の企画内容が固まった段階で、参加者の有志による **実行委員会** を立ち上げ、この実行委員会を主催者として社会実験を実施する。



2024年度（令和6年度）のアプローチ

社会実験の企画をみんなで作ってみる!!

社会実験の企画をみんなでカタチにする!!

ワークショップ形式による企画内容検討

実行委員会による社会実験の実施

次年度以降も、このアプローチを継続する

一般市民は？

無関心

認知していない状態

知る

賛否はあるが認知し出す状態

関わる

興味を持つ市民が参加し出す状態

活用する

市民が積極的に場を活用する状態

にぎわい!!

時間はかかるが、実験を繰り返すことで、にぎわいの創出につながる

3. 全体スケジュール

	7月			8月			9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
民間関係者	出店候補者等						社会実験出店交渉 外部団体巻き込み 出店交渉			社会実験の実施					
ワークショップ実行委員会	7月23日開催 第1回ワークショップ			8月22日開催 第2回ワークショップ			第1回実行委員会			第2回実行委員会					
社会実験（行政協議）	対象エリアの活用に向けた下協議			運営課題の整理			運営マニュアル作成								

ワークショップ・実行委員会の内容

第1回ワークショップ	社会実験のコンセプト・テーマを議論する。どんな場にしていきたいか、どんな人に使ってもらいたいかなど
第2回ワークショップ	対象とするエリアに、どのような場・空間をつくるかを議論する。実行委員会の立ち上げ など
第1回 実行委員会	コンセプトやテーマに沿って、社会実験当日の内容や出店者、会場構成などを確認する。
第2回 実行委員会	社会実験当日に向けて実行委員会のメンバーで当日の役割などを確認する。

※全体スケジュールについては、議論の進捗状況等により変更する場合もある。

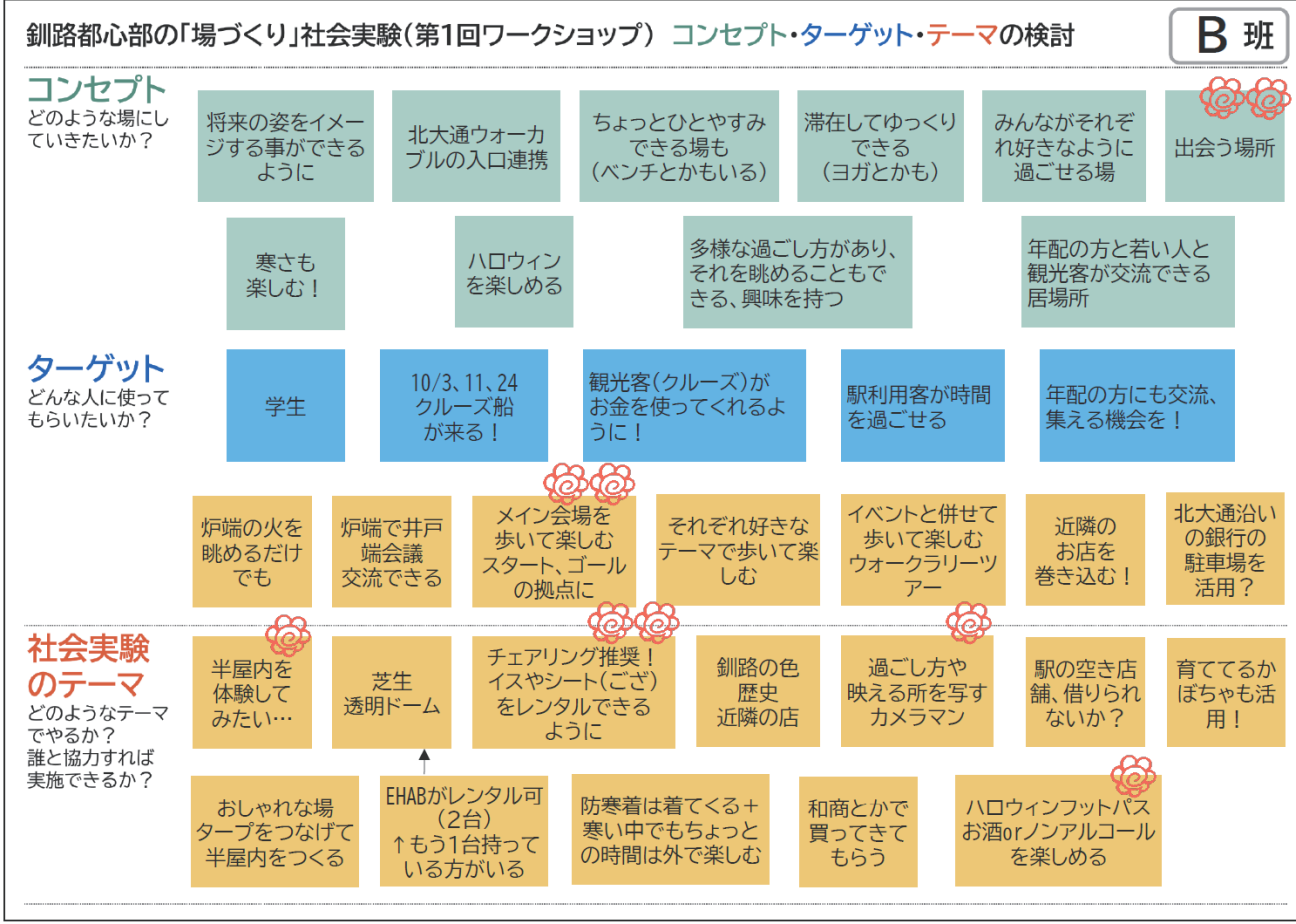
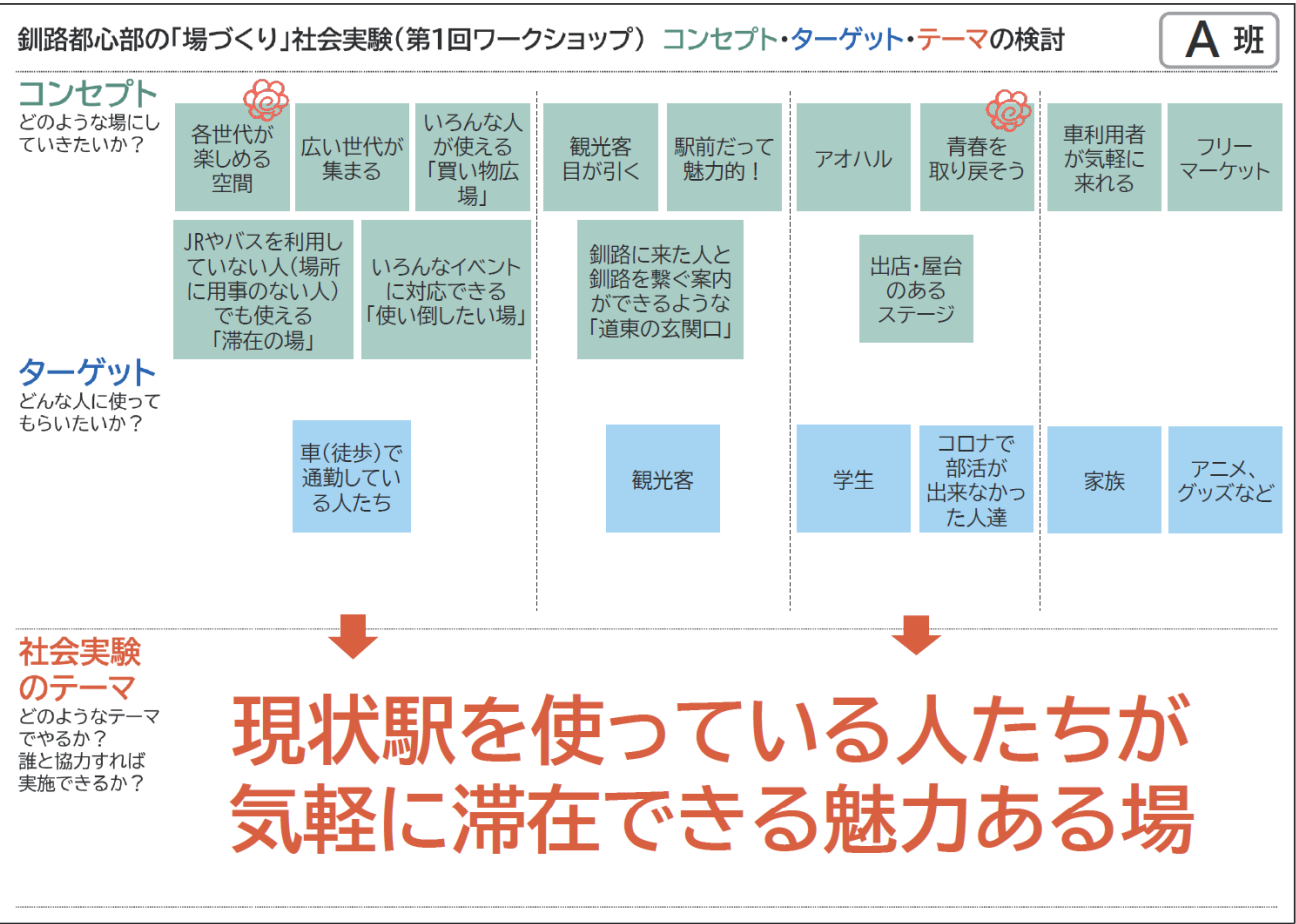
4. ワークショップのメンバー

R5 ワークショップメンバー （居心地が良く人々が集う 空間デザインを考えるWS）	5名	RINK釧路まちづくりラボ	2名
中心市街地活性化研究会	1名	くしらボ（大学生）	2名
みなとまちづくり ワークショップ	2名	その他	2名

※R5ワークショップメンバーには、参加の有無にかかわらず内容を報告し、ご意見をいただくこととしている。

釧路都心部の「にぎわいの場づくり」を検討するための社会実験の実施について【中間報告】

5. 第1回ワークショップの開催概要



コンセプトは「出会う場所」とした。

年配の方・若い人・観光客が出会う場所、みんなが好きなように過ごせる場所、ヨガなどができるゆったりした場所、ベンチなどで一休みできる場所、北大通ウォーカブルの入口と連携できる場所、ハロウィンを楽しめる場所など、社会実験では「将来の姿をイメージできるようにすることが重要」と考えた。

ターゲットは、学生・クルーズ船の観光客、駅利用者、年配の方と将来を見据えて幅広くした。

社会実験のテーマは、駅前で出会う場所を作ることがコンセプトなので、実際に井戸端会議をやる、タープをつなげて半屋内を作ってみる、芝生を引いてピクニック出来る場所を作ってみる、炉端を設置してBBQなどで交流が図れるようにする、チェアリング(自分の椅子をもって来る)をやってみる。そこから発展して、北大通を歩くウォーカブルをやってみる、ハロウィンなどで仮装して歩く、近隣のお店の協力を得る、カメラマンをやとって写真をSNSにアップするなど、ウォーカブルな取り組みまで連携したい。



まず、現在JRやバスを利用している人をターゲットに考えた。広い世代が集まれる・楽しめる空間、買い物ができる広場、イベントが開催されている広場、そういった空間が好ましいと考えた。

次に、釧路にきた観光客が感動する場所、学生がアオハル(青春)を体験できる場所をイメージすると、一過性にはなるが、お祭り・屋台・ステージなどのイベントも有効的だと思う。また、おしゃれな空間や待ち合わせスポットという案もあった。

また、家族連れは駐車場が必要となるが、釧路駅周辺には駐車場はあることはあるが、気軽に利用できる環境がない。対策は高架下になってからになると思う。

やはりイベントは一過性になりがちで、イベント開催のみで終了となってしまう。できれば継続的に使えるようにしたいので、通学や待合せで利用している学生、また、普段バスや駅を利用している人達が気軽に利用できるように、社会実験のテーマを「現状駅を使っている人たちが気軽に滞在できる魅力ある場」とした。